

佐賀県研究成果情報（作成 2023 年 2 月）

[情報名] キャベツ品種「藍天」は、中山間地の初秋どり作型において、商品収量が多い

[要約] キャベツ品種「藍天」は、中山間地において、6月中旬播種、7月中旬定植で、9月下旬～10月上旬に収穫でき、商品収量が多い。

[キーワード] キャベツ、秋どり、中山間地

[担当] 佐賀県農業試験研究センター・三瀬分場・山間農業研究担当

[連絡先] 0952-56-2040・nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp

[分類] 普及

[部会名] 野菜

[専門] 栽培

[背景・ねらい]

佐賀県では、キャベツを露地野菜の重点品目として、作付けを推進している。また、さらなる生産振興に向けて、出荷時期の分散が求められている。

そこで、中山間地の夏季冷涼な気象条件を活かし、初秋どりの作型を開発するために、品種を選定する。

[成果の内容]

1. 「藍天」は、6月中旬播種、7月中旬定植で、9月下旬～10月上旬に収穫できる（表1）。
2. 「藍天」は、「彩里」と比べて、結球重が20%程度大きくなる（表1）。
3. 「藍天」は、「彩里」と比べて、商品収量が多い（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 標高400m、花崗岩系砂壤土の圃場で栽培した結果であり、中山間地のキャベツ栽培の作型検討の際に活用できる。
2. 施肥量は、佐賀県施肥のてびきのキャベツ秋どりに準じた。
3. 定植時期は、梅雨期であるため、降雨の影響により圃場準備が遅れないよう留意する。
4. 栽培期間は、高温期であるため、生育状況、圃場の乾燥状態を考慮して灌水を行う。
また、大雨や台風等の被害も懸念されるため、排水や防風対策を講じておく。



図 2022年9月26日収穫「藍天」

[具体的なデータ]

表1 各品種における収穫日と結球の形質

年次	試験区		品種名	収穫日		結球重 (g/株)	球径 (cm)	球高 (cm)	球形指数 (球高/球径)	結球緊度 (g/cm ³)	芯長 (cm)
	播種日 (月/日)	定植日 (月/日)		平均値 (月/日)	CV (%)						
2021年	6/15	7/13	彩里	10/3	7.0	1,065 (100)	17.2	12.7	0.76	0.56	7.2
			藍天	10/6	6.6	1,297 (122)	20.1	12.1	0.62	0.53	6.7
2022年	6/15	7/15	彩里	9/26	-	1,245 (100)	17.8	13.1	0.75	0.59	7.6
			藍天	9/26	-	1,545 (124)	21.4	12.3	0.59	0.55	6.3

注1) 調査株数は10株/区×3反復

注2) 2022年は9月26日に一斉収穫した

注3) CV(%) = 変動係数 = 標準偏差(SD)/平均値×100、定植日から収穫日までの日数より算出

注4) 結球重の()内は「彩里」を100とした対比

注5) 結球緊度は結球重/(1/6×π×球高×球径²)

表2 各品種における商品収量

年次	品種名	欠株率 (%)	不結球株率 (%)	虫害株率 (%)	病害株率 (%)	生理障害株率 (%)	可販株率 (%)	商品収量 (kg/10a)
2021年	彩里	5	0	5	18	0	72	3,246 (100)
	藍天	3	0	5	2	0	90	4,945 (152)
有意性		n.s.	-	n.s.	n.s.	-	n.s.	*
2022年	彩里	7	6	6	1	19	61	3,222 (100)
	藍天	13	0	4	7	3	74	4,817 (150)
有意性		n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	*	n.s.	*

注1) 調査株数は2021年20株/区×3反復、2022年24株/区×3反復

注2) 栽植本数は4,235株/10a

注3) 虫害はチョウ目幼虫の食害、病害は軟腐病の発生、生理障害は結球内部の褐変

注4) 各項目の少数第1位の値を四捨五入したため、株率の合計が100とはならない

注5) 商品収量の()内は「彩里」を100とした対比

注6) t検定により*は5%水準で有意差あり、n.s.は有意差なし、-は検定なし

[その他]

研究課題名：露地野菜の生産拡大を可能とする地域特性に応じたスマート農業体系の開発

予算区分：県単（再配当）

研究期間：2021～2022年度

研究担当者：加茂大知、口木文孝、手塚敏輔、月足公男